ルポ 2　（医）郁慈会 服部記念病院（奈良県北葛城郡）

直営型の奈良県民間病院の院内保育所第 1 号 主任保育士は勤続 20 年

11 人の保育士が在籍 正月三が日を除き無休

人口約 9 万 7 千人の奈良県北葛城郡にある服部記念病院（前田章理事長・162 床）の院内保育所「白鳩保育園」は、中小民間病院では珍しいとされる直営による施設だ（同じグループの社福との共同経営）。1995 年の開設で、奈良県の民間病院の保育所第 1 号として当時、新聞に取り上げられたこともある。

病院の隣接地にあり定員は 20 人。保育士は常勤 6 人、非常勤 5 人と手厚いマンパワーにより、現在は通常保育、休日保育、夜間保育、病児・病後保育（定員 2 人）まで、必要とされる保育サービスをすべて実施している。中小規模の病院でなぜ、これだけの保育ニーズがあるのかについては、若干の説明を必要とする。

そもそも同院は同じグループの（社福）郁慈会（服部興南理事長）と、緊密な連携により運営されてきた。広大な敷地の中で、医療機能を担う同院を中心に、社会福祉法人が運営する特別養護老人ホーム 4 施設、軽費老人ホーム（ケアハウス）2 施設、そのほか介護老人保健施設、訪問介護・居宅介護支援事業所、デイサービス、ショートステイなど、医療と介護、福祉を一体的に提供する体制を整え、地域包括ケアシステムで必要とされる機能は、エリア内にほぼすべて整備。病院と社会福祉法人の事業所を含めると、全体で約 650 人の職員が勤務する。

「白鳩保育園」は病院だけでなく、特別養護老人ホーム等の 4 つの施設を含む全事業所の看護師、介護職員、事務職員等の児童を対象としている。0～3 歳児に限定せず、小学校就学前の子どもまでの受け入れが可能なので、申し込み者は引きも切らない。正月三が日は休園だが、それ以外は無休体制で稼働。スタッフの熱意には頭が下がるが、これが本来必要とされる院内保育所のあり方なのだろう。

病児保育は専任看護師と感染対策委員会がバックアップ

開園当初から参加し、昨年、勤続 20 年表彰を受けた主任保育士の栗栖邦香氏に話を聞いた。「当初は当院が建設中だったため職員寮の 1 階を保育所として利用していたのですが、その後、介護施設等が増設され職員数も増え、職員のニーズが増したことから、隣接地へ移転して施設・設備の充実した保育園の開設が実現したのです。以前は派遣職員の子どもさんも受け入れていたのですが、入園希望者が多いので現在は、正職員とパートだけの利用になっています。看護師、介護職の勤務体制は多様ですので、お母さんが夜勤の時だけ、あるいは日曜・祝

服部記念病院。花壇がある庭園の周囲に病院、複数の介護施設を集約させた療養環境は、北欧の施設のようだ

公園を併設した「白鳩保育園」

日だけの活用など、個々の職員の働き方によって利用の仕方を選択していただけます。就学前の子どもさんが対象ですが、3歳以上になると自宅に近い街中の保育園を利用し、他の保育園が休みの土日・祝日に当園を使う職員も多いと思います」。

勤務体制や家族の事情に応じた弾力的な利用がしやすいように、保育料は月ぎめではなく1日800円。病児・病後保育は1日1,000円と一律。全職種同一料金で差をつけない。

病児・病後保育の開始は2011年。同院に小児科はないが、外来看護師の中に病児保育の専任者がおり、病児が入園している間は病院と保育所との間を毎日、定期的にラウンドし、常時の健康管理を担う。

さらにインフルエンザ等の感染症に関しては、同院の感染対策委員会が積極的に関与し、病院全体でサポートする体制を取る。小児科医が不在でも院内のチーム医療体制と、地域の小児科医との連携が万全であれば対応可能な好例といえる。また、直営であるからこそ、病院と保育園との緊密な連携体制の構築が進めやすいとの側面もあるかもしれない。

夜間保育に関しては利用者が限られることから、手厚い人員配置で保育士と児童の「1対1家族」によるマンツーマンの保育サービスを可能にしている。全国で保育士不足が顕在化し、特に夜間保育のできる保育士の人手不足が深刻化する現状で、これだけの保育人材を確保しているのは、それなりの勤務環境や待遇が整備されているからと思われた。

看護師の有給休暇取得率は94%、「働きやすい」環境づくりに尽力

同院の病床区分は一般病棟(10対1)104床、地域包括ケア病床(Ⅰ)16床、医療療養型(Ⅰ)42床からなるケアミックス型。看護職員数(昨年末段階)は73人、看護補助者も34人と充実しているが、看護補助者は患者の生活援助担当と、事務処理担当とで役割分担。各病棟にそれぞれ適正人員を配置し、看護師の負担軽減に力を注ぐ。ちなみに「急性期看護補助体制加算」(25対1)、「夜間急性期看護補助体制加算」(50対1)を届け出ている。看護職員の平均年齢は43.8歳だ。看護部門を統括する看護課長の片山美智代氏は、次のように話す。

「当院は地方の病院でもあり、新卒よりも結婚、出産などのライフイベントに直面する30歳前後の看護師を採用するケースが多く、“働きやすい労働環境”づくりに向けて、保育所設置も含めた様々な取り組みを積み重ねてきました。医療法人の経営陣とも相談の上、現在では正職員短時間勤務制度や日勤専従、夜勤専従、非常勤雇用等、家庭の事情も考慮し、看護師が選択できるフレキシブルな勤務体制を導入しています」。

同院における昨年度の時短勤務対象者は7人で、うち看護師が4人。看護師の有給休暇取得率は94%と高く、平均残業時間も昨年9月から11月までの間は、月10時間前後で推移している。過去3年間で育児休業を取得した看護師数は、トータルで15人にも及ぶ。

「白鳩保育園」には常勤5人、非常勤6人の保育士が在籍している。後列右端が主任保育士の栗栖邦香氏

片山氏は、「実際に応募して来られた看護師さんが面接後、保育園の見学を希望される方も多数おられます。中途採用者の多い当院では、就学前児童の24時間保育、病児・病後保育をマンツーマンで行える保育所を運営しているのは、看護師のリクルートや離職防止に向けての大きな“強み”にもなっていると感じます」と明言する。

前述のようにエリア内に複数の介護施設があり、約600人の入所者が“終の棲家”として居住している。これらお年寄りの「かかりつけ」病院的な役割を果たし、高齢患者の受診割合の高い同院では、あえて「7対1」を取得し急性期医療に特化して早期退院を促すよりも、現状のケアミックス型の方が、患者ニーズに対応しやすいと片山氏らは考えている。